

伊東市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和4年2月15日(火) 午後3時45分～午後5時00分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟7階特別会議室
- 3 出席者 伊東市長 小野 達也 教育長 高橋 雄幸
教育委員 村上 恵宏 教育委員 山本 香織
教育委員 沼田 芳美 教育委員 遠山 泰範
- 4 事務局 企画部長 杉本 仁 教育部長 岸 弘美
次長兼教育総務課長 相澤 和夫 企画課長 菊地 貴臣
教育指導課長 多田 真由美 幼児教育課長 稲葉 育子
生涯学習課長 杉山 宏生
教育総務課課長補佐 佐々木 清行
教育総務課課長補佐 太田 靖久
主査 新田 修士 主事 長津 雅也 主事 松岡 翔太
- 5 会議の経過

事務局：ただ今から伊東市総合教育会議を開催する。傍聴を希望する方はいないため、このまま会議を進めさせていただく。開会に当たり、市長からご挨拶申し上げます。

市長：本日は忙しい中参集いただき感謝申し上げます。今年に入ってからコロナ変異株の感染力が強くなり、学校関係でも感染が広がりつつあり、予断を許せない状況にある。学力だけではなく、学校生活を充実させていくことが私たちの責任であると思っている。日頃からいろいろなご協力をいただいている。この非常事態をいつ抜け出せるか分からないが、またご指導いただけるようお願い申し上げます。本日の総合教育会議であるが、議題は2点ある。1点目は教育大綱の改定についてである。教育大綱は平成27年5月に策定し、平成29年

12月に改訂を行った。国のGIGAスクール構想による1人1台端末の整備など、教育を取り巻く環境は大きく変わってきている。そういった変化に対応するため、大綱を改定することとした。伊東市の未来を担う子どもたちのため、競輪事業の収益を活用するなど教育環境の充実に力を入れている。これからの伊東市を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、また、市民ひとりひとりが生涯にわたり、美しいふるさと伊東で学び続けることができるよう、新たな大綱に基づき、教育行政を推進していきたいと考えている。2点目である。学校統合について、まずは、令和3年4月に、保護者や地域の皆様、学校の先生方のご理解とご協力により、川奈小学校と南小学校が無事、統合されたこと、この場を借りて、改めて教育委員の皆様にお礼申し上げる。現在、東小学校、西小学校、旭小学校の3校統合の諸課題を検討協議する地域協議会において、3校関係者による活発な議論、協議がなされていると伺っている。本日はそのうち校名校歌および新たな校章の作成について議題とさせていただく。新型コロナウイルス感染症が本市においても拡大を続け、予断を許せない状況ではあるが、子どもたちのより良い教育環境整備のため、引き続きご協力をお願い申し上げます、私からの挨拶に代えさせていただく。

事務局：続いて、教育長よりご挨拶申し上げます。

教育長：本日はご多用の中、小野市長、教育委員の皆様に出席いただき、感謝申し上げます。市長の挨拶にあったとおり本日の総合教育会議は、2つの議題が中心となる。伊東市教育大綱の改訂、そして、3校統合に向けての校名校歌校章の作成についてである。先ほど開催された伊東市教育委員会定例会で、3校統合後の校名は「伊東小学校」、校歌については現西小学校の校歌を継承することを決定した。校章については、公募により新たな校章を決定することも確認した。この場で改めて、市と教育委員会が統一的な意思決定をすることで、伊

東市全体が一つになり、伊東の子どもたちが健やかに成長でき、大きな希望を持てる学校統合に向けて取り組んでまいりたいと考えている。今後も、これまで以上に保護者の皆様、地域の皆様に分かりやすく、丁寧な対応、説明をしていきたいと考えている。未来を開く教育行政の推進、子どもたちの健やかな成長を目指して、本日が市と教育委員会のさらなる連携の場となるようどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局：それでは始めに資料の確認をさせていただく。

（事務局より資料の確認）

事務局：続いて事務局から総合教育会議の目的等について説明をさせていただきます。総合教育会議は、市長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議調整の場であり、地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政を推進することを目的としている。その役割は主に３点ある。１点目は、教育行政の大綱の策定。２点目は、教育の条件整備等の重点的に講ずべき施策の協議調整。３点目は、児童生徒等の生命身体の保護等緊急の場合に講ずべき施策の協議調整とされている。本日の会議では、１点目の教育大綱の改定、また２点目の教育の条件整備等の政策に関連して、東小西小旭小３校統合後の校名校歌校章についての協議をお願いしたい。

事務局：続いて議事に入る。議事の進行については「伊東市総合教育会議の運営について」のとおり、小野市長をお願いしたいと思う。

市長：では、ここからは私が進行する。始めに、議事の（１）「伊東市教育大綱の改定について」である。大綱は、地域の実情に応じ、教育学術および文化の振興に関する施策の方針を定めるとされている。伊東市では、平成２７年５月に大綱を作成し、平成２９年１０月に改定を行っているが、教育を取り巻く環境の変化も早いことから、将来を見据え、私の思いを加味し、新たな伊東市

教育大綱（案）としてお示しした。

（ 事務局より資料に沿って説明 ）

市長：それでは、これより協議に入る。大綱（案）について、教育委員の皆さんの意見を伺う。

村上委員：今回の教育大綱改定案であるが、市長の思いが伝わってくる。思った以上に改定の部分や新しい項目が増えている。そして内容についても、コロナ禍という状況の中、変化に対応していくこと、市長の思い、「新しい伊東スタイル」が本当に表れていると感じる。変化に対応していくためには、柔軟な対応力、社会性、危険を未然に回避する力が必要である。そして、感染防止対策や自然災害といったところに、今後も予算を入れていただきたい。危機管理体制といったところでも、いろいろと新しい項目が増えてくると思う。この後、小学校統合の話も出てくると思うが、先ほど各学校の歴史についても話が出たが、ふるさとの歴史文化についてもきちんと載せられている。新しい図書館は、「夢と未来を育む図書館」ということで、「まちのミュージアム」と掲げている。まちづくりについては、国の補助も出るように聞いているので、ぜひとも図書館については国の補助をもらえるような実施設計になったらいいなと思った。私は改定案がこれで本当に良かったと思う。

市長：いろいろと評価をいただいて、ありがたい。危機管理については、政策の一項目に置き、重きに考えている。例えば、防犯カメラについては、区や町内会、公共施設など、あるようでなかったところがたくさんあったので、そういうところを拾い出し、今年度、来年度と予算をつけ、安全を守っていく。例えば、これからの新しい車は、ドライブレコーダーが標準装置になるとも聞いているので、そういった一連の流れの中、今の時代は防犯カメラがマストになったと感じている。危機管理については、防犯カメラだけではないが、しっかり

と対応していきたい。図書館の補助については、事務局が鋭意検討中である。

山本委員：前文に書いてある「市民が主役となり、誰もが夢と希望を形にできる未来の実現を目指し」という部分ですとか、「新しい伊東スタイル」というところで、市長の思いも感じられる文章だと思った。2番、3番についても、前回の大纲より具体的に書かれて、とても分かりやすくなっている。2（1）については、これからコミュニティスクール制度を導入することによって、今まで以上に学校、保護者、地域の皆様が知恵を出し合い、地域との繋がりが深くなると思う。一緒に子どもたちの豊かな成長を支え、地域と共にある特色のある学校になると思い、とても期待している。2（7）に感染症対策や防災教育など、重要な視点も書いていただき助かる。今、学校現場では先生方が大変な思いをされていると思う。子どもたちの安全な環境にするためにハード面、施設整備はもちろん必要であるが、ソフト面、例えば英語の授業が始まるなど、今までにない対応をしていかなければいけない。コロナ対策についてもそうだが、今までよりもどんどんと仕事が増えていく。先生方が子どもたちに向き合う時間は削って欲しくない。以前から、支援員の増員などはしていただいているが、それ以外の教員免許がなくてもできる仕事については、外注をするなり、雑務をしていただく方をつけていただくと、子どもたちにとっても、先生方にとっても、いい環境になると思う。

市長：前文から評価いただいた。今後始まるコミュニティスクール、地域全体で学校を支え、子どもを育てる、新しい取り組みになるので、しっかりやっていきたいと考えている。ハード面では、冒頭に申し上げた競輪での収益を充てて、整備できるかと思っている。現場の教職員の皆さんへのソフト面について、メンタルケアも含めて、いろいろな悩みがあるかと思う。それについても少しでも軽減させ、本来の子どもたちに対する教育であるとか、事務職についても、

本来やるべき仕事に集中できるようにしたい。例えば免許外の仕事についても、上手になんらかの形で、最終的にはお金の問題なると思うが、現場の先生方とも相談をしていきたいと思う。今後の検討課題と思っている。

岸教育部長：ご指摘いただいた件については、日頃から教育委員の皆様からご指摘いただいております。教育指導課中心に現場の先生や校長先生の意見を聞きながら、補助員や支援員について、来年度は予算を大幅につけていただいたので、増員し、子どもたちに還元できるよう、支援を続けていきたいと考えている。

沼田委員：前文に「新しい伊東スタイル」という言葉が入ったことで、全体の方向性が示されているなと思う。市長の思いが出ている。1番「夢と希望をもつ子どもの育成」で、「楽しむ」という言葉が「向かう」という言葉に変わったことで、子どもたちが前進していく姿が目に見えよう。（2）に「人として備えたい力」とあるが、コロナ禍で社会が変わる今だからこそ、人間関係、友達関係はとても大事だと思う。そのことが希薄にならないようにしてほしいと思う。（3）に「危機対応能力の向上」と入ったが、防災教育に繋がり、大変いいなと思った。2番の「夢と希望を育む園・学校の基盤整備」（4）の「ICT環境」、（7）の「危機管理体制の徹底及び防災教育の推進」とあるが、新しい施策が入ったことで重みがある。そして、3番の「生涯学習の場の充実」（5）に次世代に繋げることが大切という内容について、子どもの数も少なくなっているので、次世代に大事なこと、地域の歴史や文化を継続してほしいと思う。そういうことが施策の項目に入ったことも良いと思った。そして、ということは、善行賞の内容にも繋がり、子どもたちが目を向けていく一つの場になるのではないかなと思う。そして、（8）で新図書館について大きく取り上げたことが、伊東市のアピールにも繋がり、魅力を感じる。

市長：とても的確にポイントを押さえていただいた。「新しい伊東スタイル」

については、議案の一番下に米印で出しているが、これからのウィズコロナと
いうか、今までにない常識、今までとおりでは駄目ということが、「新しい伊
東スタイル」になる。まず、こういった教育大綱によって、意識を高めていく
ことが必要であると思うので、ご理解いただけてありがたい。「向かう力」、
これは国の教育大綱でも改められている。「人として備えたい力」ということ
も含め、時代が変わっていく中で、そこに重きを置くことがいかに必要である
か、了解いただけたと思う。次世代に歴史や文化を継承していくことは、簡単
にできることではない。例えば、子ども会はほとんどが休止状態である。本当
に子どもが少なくなった。地域のお祭りでさえ、町内の人ではできないところ
も出てきた。そういったレガシーは残したいと思い、今後の対応をしっかりとや
っていききたい。先ほど話が合った善行賞、もらったご本人の顔を見ると、本当
にうれしそうである。褒めてあげること、叱ってあげるといのは言い方がお
かしいが、けじめをつけていくことが、やはり大事になると思う。新図書館に
ついては、議会でも、財政が大変な時に、本当に作るのかという意見がある。
財政については、コロナ禍だけではなく、どんなときでも大変である。必要に
応じてやっていくものは、いつも必ず出てくる。そういう中で、決めた事を確
実にやっていく事が重要である、と私は答弁している。やっと実施設計まで来
たので、ここからは、スピードアップ、パワーアップして、一生懸命検討して
いく。行政は満額をキャッシュでやるわけではない。次世代に負担は残すが、
インフラとして施設は残る。図書館の場合は、実際の図書が財産である。それ
に加えて、新しい居場所作り、カフェテラスなども入る予定もあるが、観光の
お客様にもくつろいでいただき、お子さんとも一日遊んでいられるような図書
館を目指したい、ということでコンセプトを作っている。思い切って作り直す
ということが、教育に繋がると考えている。

遠山委員：皆さんがおっしゃるとおり、時代や環境に併せ、いろいろな配慮の下、言葉を選んでおり、とても具体的で、温かみがある表現が多いという印象である。1番に「自己肯定感」という言葉が新しく出てくる。素晴らしいと思った。自己肯定感という言葉調べると、安心感ということが出てくる。家庭や地域、学校の中で自分が大切にされているという安心感から、その上で頑張っていこうという気持ちになる。それが実現できるよう期待している。そして、2番の園・学校の基盤で「多様性・価値観を尊重」という言葉が出てくるが、いろいろな多様性の中で生きていくことを認めてもらうことが、大きな安心になると思った。図書館については、すごく期待をしている。文化や歴史を学べる場であり、活動ができるホールも企画されるということで、まちのハブとしての活動の場になったら素晴らしいと思った。最後に、学校で安心を感じてもらうには、学校の先生方が、安心した思いで教育に携わるということも、大切だと思う。山本委員がおっしゃった、学校の先生方のケアも進めていただくとありがたいと思った。

市長：温かみを感じていただき、非常に安心した。自己肯定感イコール安心感ということをお調べいただいたようだが、自分はこういうものだ、ということをつかめるような教育をしていきたい。私は社会の中で磨かれ揉まれて、現在に至っている。自分探しは本当に苦労した。でも、何とかこのような今がある。子どもたちにそういった迷いがないよう、安心して教育に携わっていただきたい。また、ご指摘いただいた多様性について、ジェンダーとの関わりで、中学校での制服選択制ということも、事務局サイドも検討している。SDGsが叫ばれるようになり、伊東市もいろいろと取り組んでいる。多様性について取り組むことも重要になると思うので、価値観を高めていければと思う。図書館について、夢があるものができるという声も多く聞こえてくるようになった。期

待に沿って、しっかりと進めていきたい。それから最後に触れられた先生方が教育者としての業務に集中できる体制作りは、先ほど教育部長も話したが、必要なところは可能な限り支えていきたい。生々しい話で予算もあるが、対応できることはやっていきたい。大変貴重な意見をいただいたと思っている。

市長：では、大綱について、今回お示した伊東市教育大綱（案）のとおり決定してよろしいか。

（ 異議なしの声 ）

市長：それでは、大綱（案）から（案）を削っていただければと思う。

市長：次の議事の（２）東小西小旭小３校統合後の校名校歌校章についてである。

（ 事務局より資料に沿って説明 ）

市長：それでは、これより協議に入る。ただいま事務局からの説明あったが、教育委員の皆さんから、補足のご意見や、３校の統合に向けた要望があれば伺う。

村上委員：先ほどの教育委員会定例会でも説明があり、今も市長そして教育長から話があったとおり、校名、伊東小学校。校歌、現西小学校の校歌。校章には新たな校章を公募、ということについて、昨年５月からの統合地域協議会での意見や結果を尊重したい。そして実際、なるほど、と納得をしており、進めていただければと思う。それから、先ほどの定例会でも話をしたが、スクールバスについて、いろいろと検討をしていただいているが、スクールバスだけではなく、保護者の送迎についても意見が出てくると思う。安全面や渋滞問題も考えられる。そういったときに、ロータリーがいいのか、通り抜けていくのか、その辺はどうなのか。また、行事の際は駐車場が必要になってくると思う。駐車場の確保が周辺だとどこにあるのか。予算がかかることかもしれないが、そ

ういうことの考えもお願いしたい。最後に1点。新しく3校統合された教育の中で、新しいカリキュラム、魅力的なカリキュラムがどうなるか。今、伊東市では、移住に関して事業者への支援をしていると思う。最近は地方再生の意味で、教育移住についてもよく聞き、実際人口が増えているところもあると聞く。コロナ禍でテレワークが進み、今まで伊東市周辺では仕事がなかった方が、テレワークで仕事ができ、自然の環境で子どもを育てられる。新しい学校での魅力のあるカリキュラム、授業について、具体的にはあと1年後であるが、まだ1年あると考えるのか、もう1年しかないと考えるのか、いろいろと知恵を出していただきたい。英語力に力をいれる地域があったり、イエナプランといって、年齢に関係なく授業をしたり、プログラミング教育に力を入れるなど、どれが伊東市に適しているか分からないが、魅力的なカリキュラムを考えて、移住にも繋げられたらいいなと思い、ぜひ検討していただきたい。

市長：後段に話が出た教育移住について、これほどテレワークが進むとは思わなかった。報道で目にされたかもしれないが、昨年静岡県内で社会増になった自治体は少ないと思うが、伊東市は263人、プラスになった。浜松市が80万人住んでおり、静岡市は70万人、伊東市は7万人切っており、小規模ではあるが、プラスになっている。テレワーク効果なのか、コロナ禍で伊東市が選ばれつつあるという手応えはある。子どもの数がどの程度増加したかの報告はないが、これからの住民票を移し、学校の手続きを踏んだ移住が増えてくるように期待をしている。そうした中で新しいカリキュラムを作る事も重要である。それから、前段のスクールバス、送迎のゾーン、駐車場の検討状況について、事務局が回答出来たら、お願いしたい。

事務局：安全確保を第一に考え、協議を進めている。ロータリー型にするのか、一步通行にするのか、安全確保、動線、人の流れ、車の流れを含め、よくよく

考えていきたいと思っている。

市長：私案であるが、秘書課の車で登庁すると、西側のロータリーに入るが、こちらはあまり車が来ない。そこから東小まで歩道橋で繋がっている。私案であるが、登校の時間は、このロータリーを活用して、入り口には整理する人が立った方がいいかもしれないが、出入りの多くないロータリーであるので、ここで降ろして、学校に行く。迎えの場合も同様であり、私の案としてはそう思っている。保護者の皆様に負担がないよう、あるいは地域の皆様に迷惑をかけないように考えていきたい。

山本委員：3校の成り立ち、伊東尋常高等小学校であったこと、周辺が伊東町であったことを鑑みると、校名は伊東小学校とするのが一番しっくりくる。多くの方が納得できる名称ではないか。校歌についても、伊東尋常高等小学校が三つにわかれて、また一つに戻っていくという考えで行くと。現西小の校歌を継承することがよいと思う。校章については、新しい学校へのいろいろな方の思い、希望を校章として表現していただくことで、象徴になることを期待している。私もそうだが、自分が通っていた学校は、自分の地域にあって当たり前だった。自分が通っていた学校の歴史を詳しく知らなかった。閉校になった川奈小学校もそうだが、今回統合の3校の歴史を、新聞等で見ることがあると思うが、そこで自分の通っていた学校の歴史を調べるきっかけになれば良いと思った。子どもたちの安全確保が一番大事だと思うので、スクールバスの乗り降り、運行中の見守りといった部分も、今後対応しなければいけない。PTAや保護者の方にお問い合わせの部分もあると思うが、市として、しっかりと対応できるように予算のお願いをしたい。子どもの体と心の心配があると思う。3校が一緒になることが、楽しみになるよう、事前の交流が大変重要だと思う。現状はコロナの関係で非対面交流が多いと思う。今後、直接会う前に、例えば、電

子黒板もあるので、リモートで、互いの顔が見える交流ができればいいと思う。また、何かあったとき、子どもでも保護者でも、気軽に相談できるような環境作りをしていく必要があると思った。

市長：まさしく、私も西小学校卒業であって、明治２９年からあったことは一つも記憶になかった。恐らくそういったことは習っていたとは思いますが、知らなかった。西校、西校と呼んだものだから、西小というイメージもなく、独特な学校だと思っていた。私が小学校の時には、静岡県のモデル校で通信簿がなかった。評価されているのか、不思議な学校であり、中学校になって初めて通信簿をもらった。そのような記憶をたどっていくと、無くなることに寂しさもある。現在、南小学校に川奈小だった子どもたちが通っているが、前向きに通っていただければと思う。安全確保の話もあったが、スクールバス、送迎、臨時駐車場など課題が残るが、しっかりとやっていきたい。見守りの話は、冒頭も申したとおり防犯カメラをしっかりと整備していくことも大事だと思っている。交流について、南小川奈小統合の際も、「この子川奈小の子だよ。」と言われたいようにして欲しいと思った。しかし、その後そのような報告はなかった。今回も同様の心配はあるので、３校の地域協議会でも、事前交流についてしっかりとやっていきたい。提案いただいた電子黒板等での非接触型交流も含めて、現場の先生方と検討できればと思う。

沼田委員：校名校歌校章の決定方法については、賛成です。校歌について、西小の校歌は難しいと聞いている。コロナ禍で交流が難しく、特に歌、合唱は休止となっているが、チャンスを見て、西小の生徒が先生役になり、みんなで一緒に歌うなり、いい雰囲気があればいいかなと思う。校章はとても楽しみで、ワクワク感がある。それぞれの学校に歴史があるので、川奈小も含め、学校の歴史が展示できる場所があり、市民の皆さんが気軽に足を運び、昔を懐かしむ

ことができればと思う。そういう計画も事務局にはあるようで、そういった配慮があり、よかったと思う。保護者は通学の仕方、学童保育などですごく心配している。安心できるような体制を整えていただきたい。実際にやっていく中で、改善することもあると思うので、それらを改善することが大事である。最初からすべてを決めるのではなく、少し幅を持たせることも大事だと思う。

市長：西校の校歌は本当に難しい。歌ではないような詩にメロディをつけたようで、おかげさまで今でも歌える。歌詞に若干不安なところもあるが、歌詞を見ながらであれば、間違いなく最後まで歌える。こんなに難しい歌はないので、覚えがいのある歌だと思っている。いろいろな方が懐かしめる場所づくりは必要だと思っている。今後、検討していきたい。通学も含めて、課題が残っているが、新年度予算の公表が済んでいるので申し上げますと、東小体育館横の駐車場を使って新しい建物を建てる。ただし、一般的な大きなコンクリート住宅のようなものを作ると、間に合わないので、割に簡易でできるものを用意する。新しい学校で、新しくできる施設はそこだけなので、充実できるようにしたい。変化する社会情勢だが、3校については、希望が持てる学校にしていきたい。

遠山委員：まず、校名校歌校章については、納得できる内容なので、そうしていただければと思う。次に統合について、周りの保護者の方々と話をすると、規模が大きくなって、大勢で学び、いろいろな活動ができ、運動会が盛り上がるのは、楽しみだと話す方がいた。ただ、今までのようなスペースがなくなるので、保護者がテントを張ることができなくなる。また、駐車場の問題も心配されている。バス通学では、かなり雨風が強いときもあるので、待合所にルーフがあるだけでも違うと思う。待ち時間を安心して過ごせるように対策が必要だと思った。市役所のロータリー案は、風を避けるところもあるので、素晴らしいアイデアだと思った。バスの停留所やルートなど、細かいことがいつの段

階で決定されるのかが、保護者の皆さんに示されると、予定が立ち、安心感や楽しみに繋がる。具体的な計画やタイムスケジュールが示されるとありがたい。

市長：駐車場などの心配は、しっかり対応できるようにしたいと思う。バス通学の方も増えるので、屋根付きの停留所も準備すべきと思うが、そこはまた検討させていただきたい。また、いつ決定できるかは、事務局もだいたいの目安はあると思うが、なるべく速やかにお知らせしていきたい。教育長から何かご意見があれば、お願いしたい。

教育長：少子化が進む中、子どもたちのための統合にしていかなければと思う。子どもたちに豊かな教育ができる環境をしっかりと整えていく、そういう使命感を持ってやっていきたい。保護者の皆様、地域住民の皆様の意見を最大限尊重しなければ、うまくいかないと強く感じている。何よりも学校は地域の歴史であり、地区の大切な場所である。そういった心情的な部分も、教育委員会で受け止めたい。事務局も教育委員も協力していただいているので、伊東市が一体となって、統合に向けて、いい学校が作っていけるよう、これからもよろしくお願いしたい。

市長：いろいろな問題が起きた際、あるいは教育委員の皆さんがそれを耳にした際は、また随時、事務局にお伝えさせていただきたいので、ご協力お願いしたい。

市長：事務局からの説明、教育委員の皆さんから意見を伺い、東小西小旭小3校統合後の学校名としては、3校の歴史も踏まえ、統合地域協議会および教育委員会の決定を尊重し、伊東小学校とすることとし、令和4年度市議会6月定例会に諮り、正式決定させていただく。校歌については、現西小学校の校歌が3校のルーツである伊東尋常小高等小学校の校歌だったことを踏まえ、現西小学校の校歌を、校歌として継承する。校章については、新たな学校としてスタートを切ることを踏まえ、新たに校章を作成し、公募により決定する。3校統

合について、保護者や地域の方の不安を解消できるよう、これまで同様、事務局には丁寧な協議を行い、進めていただきたい。通学方法等検討すべき事項は多くあるが、統合により伊東市を担う子どもたちの教育環境が充実し、明るい未来を拓く取り組みに繋がることを確信しているので、市としても全面的に支援してまいりたい。

市長：それでは、次に、議題（３）「その他」にまいる。意見等があればお願いする。

（ 意見なし ）

市長：それでは、次に事務局から何かあるか。

（ 連絡事項等なし ）

市長：これで、本日の伊東市総合教育会議を終了する。